令和6（2024）年 3月

東日本大震災から13年
岩手県大槌町との絆
被災地から学ぶウェブ防災パネル展

～ 平野大槌町長よりメッセージ① ～

「東日本大震災から13年 岩手県大槌町との絆 被災地から学ぶウェブ防災パネル展」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

東日本大震災津波から、3月11日で、13年を迎えます。

大槌町は、かつてないほどの甚大な被害を受け、当時の加藤町長をはじめ、人口の約8%にあたる1,286名の尊い命が奪われました。何から手をつけてよいか分からず、暗中模索のままに始まった町の復旧・復興。無我夢中で緊急・応急対応にあたり続ける中、富田林市の皆様からは震災直後より、物資及び給水支援、多くのご寄附、そして、平成23年から平成27年にかけては4名の職員を派遣していただき、復興の加速化に大きく貢献していただきました。

さらには、「平成28年台風10号」の襲来時においても、土のう袋や給水袋、ブルーシート等のご支援をいただいております。

～ 平野大槌町長よりメッセージ② ～

大槌町の復興状況は、お陰様をもちまして、ハード事業はすべて完了いたしました。今後は、ハード面の整備から、ソフト面の充実へと大きく舵を切ることになります。

また、大槌町の菊池妙さんが平成23年10月に、自宅の玄関先で発見した「奇跡の復興米」を、富田林市でも栽培し、大切に育てていただいておりますことを、大変嬉しく思います。昨秋の稲刈りは小雨の中、JA大阪南の皆様の支援のもと、子ども達が楽しそうに稲刈りをしている姿をニュースで拝見しました。10年もの間、子ども達が復興米の栽培を通し、「震災を風化させない」という思いを繋いでいることに深く感動いたしました。

このように、富田林市民の皆様方には、物心両面から心温まる多大なご支援をいただいており、感謝の念に堪えません。改めまして、深く感謝申し上げます。

今後につきましても、富田林市と締結しております「連携協力に関する基本協定」のもと、両市町の絆をより強固なものとするため、防災、教育、産業振興、震災の記憶の伝承など、引き続き、共に手を取り合って取り組んでまいりたいと存じます。

～ 平野大槌町長よりメッセージ③ ～

そして、大槌町はこれまでの「復興」から町の更なる発展に向け、個性のあるにぎわいを創出するため、人々との繋がりを大切にした、活力のあるまちづくりを推進してまいります。

これまでご支援いただいた皆様への感謝を忘れることなく、引き続き町民の安心安全なまちづくりに真摯に取り組み、本当の復興まちづくりの完遂に向け努めてまいります。

結びに、富田林市の皆様の益々のご健勝と、両市町の更なる発展を祈念しまして、挨拶とさせていただきます。

令和6（2024）年3月　大槌町長　平野 公三

～ 吉村富田林市長よりメッセージ① ～

私たちは決して忘れない　あの日　あの時を

～未来の命を守ると誓った東日本大震災から13年～

未曽有の地震とそれに伴う津波で、2万人を超える死者および行方不明者が発生した東日本大震災から13年になります。また、本年元日には、最大震度7を観測する能登半島地震が発生しました。これらの地震で、お亡くなりになられた方や、いまだ行方不明の方々、被災されたすべての方々に、哀悼の意を表するとともに、心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災の発災以降、本市は、岩手県大槌町をカウンターパートとして、義援金の受付、職員派遣、支援物資の提供など、市としての支援を行うと同時に、それらをきっかけとした消防団同士の交流や、JA大阪南や市内ボランティアを中心とした「奇跡の復興米」栽培を通じた住民交流など、相互に紡いできた「絆」を大切にしてまいりました。

～ 吉村富田林市長よりメッセージ② ～

また、令和2年11月に、岩手県大槌町との「連携協力に関する基本協定」を締結し、大槌町と富田林市が、苦しい時には支え合い、励まし合い、うれしい時には共に喜びながら歩むことのできる、新たなパートナーシップをスタートさせ、それぞれの地域の発展と住民の暮らしの向上に取り組んでいます。

岩手県大槌町では、13年の時を経て、土地の造成や、災害公営住宅の建設、道路の復旧などのハード面での復興整備事業が完遂されたと聞いております。しかしながら、震災が与えた様々な影響による人の復興、心の復興はこれからも続いていきます。

今まさに困難な状況の中にいる方々のことを想い、誰一人取り残されることなく、少しでも早く日常の暮らしを取り戻すことができるよう、これからも私たち富田林市は、皆が心を一つにして被災した地域や人々に、末永く寄り添ってまいりたいと思います。

～ 吉村富田林市長よりメッセージ③ ～

災害は、常に私たちと隣り合わせにあることを心に留め、日頃からの備えや、助け合いと支え合いのまちづくりを進めるとともに、大震災の記憶から多くを学び、次世代へと継承していかなければなりません。

今回、「 ～岩手県大槌町との絆～ 被災地から学ぶウェブ防災パネル展」をご覧になられた皆さまが、大震災を自分事として捉え、災害への備えや避難行動等、改めて防災・減災を考えていただける機会となれば幸いです。

令和6（2024）年3月　富田林市長　吉村 善美

～ 東日本大震災の概要 ～

発生日時	平成23年3月11日14:46
規模	マグニチュード9.0
津波	各地で大津波を観測 （最大波 相馬9.3m以上，宮古8.5m以上，石巻市鮎川8.6m以上）
被害の特徴	大津波により、沿岸部で甚大な被害、多数の地区が壊滅。
死者行方不明者	死者 19,765名（震災関連死を含む） （岩手:5,145名、宮城:10,570名、福島3,935名） 行方不明者 2,553名 （岩手:1,110名、宮城:1,215名、福島:224名）
住家被害（全壊）	122,039棟（岩手:19,508棟、宮城:83,005棟、福島:15,469棟）

復興庁「復興の現状と今後の取組」（令和5年12月）より

～ 岩手県大槌町の被害の概要 ～

最大震度	推定5程度（大槌町役場の震度計は津波で被災）
死者行方不明者	死者 1,286名（震災関連死を含む） 行方不明者 416名
住家被害（全壊）	3,579棟
住家被害（半壊）	588棟

岩手県大槌町 東日本大震災記録誌「生きる証」資料編より

「 大槌震災アーカイブシステム～つむぎ～ 」

東日本大震災により失われた大槌町の暮らしや文化、町民の思いを留めると共に、復興に立ち向かう姿や、震災により得た教訓を後世に継承し、災害に備えるために、写真や動画、資料などの永続的な保存と活用を実現することを目的として、町における東日本大震災の被災状況や、復興の過程を記録した写真、文書、新聞記事といった資料約14、000点をデータベース化（平成29年8月8日公開）

https://archive.town.otsuchi.iwate.jp/

～岩手県大槌町東日本大震災記録誌「生きる証」～

東日本大震災津波の教訓と反省を後世に継承し、災害による犠牲者を二度と出してはならないという思いから、令和元年7月刊行。

「忘れない」

事実を受け止め明日へ歩むため、津波で亡くなった方々を思い供養し、心の復興を果たすとともに、津波の悲劇を忘れない、困難に直面しながらも歩みを進めてきた姿を忘れない、そして多くの人に支えられ復興を進めていることへの感謝を忘れない

「伝える」

二度と悲劇を繰り返さないため、近年加速的に発達した技術も活用し、もの、記録、写真や映像等、あるいはそれらの複合的な方法で伝える

「備える」

防災の知恵や知識を身に付け、地域や自らが津波の教訓を活かし、いずれまた起こる震災に備える

https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/433179.html

岩手県大槌町

～ 発災時の様子① ～

砂煙とともに波が町を飲み込んでいく様子
撮影日：平成23年3月11日
撮影者：大槌町

末広町・新町方面
瓦礫で埋め尽くされている様子
撮影日：平成23年3月11日
撮影者：大槌町

岩手県大槌町

～ 発災時の様子② ～

自衛隊ヘリコプターによる救出活動の様子
撮影日：平成23年3月12日
撮影者：大槌町

大槌町赤浜の民宿に観光船「はまゆり」がのりあげている様子
撮影日：平成23年3月16日
撮影者：富田林市消防本部

岩手県大槌町

～ 発災時の様子③ ～

瓦礫の中で捜索活動をしている
消防隊員の様子
撮影日：平成23年3月15日
撮影者：堺市消防局

被災した旧大槌町役場庁舎と散乱
している瓦礫の様子
撮影日：平成23年3月16日
撮影者：堺市消防局

岩手県大槌町

～ 発災時の様子④ ～

火災にあった旧大槌小学校と周辺
の焼け焦げた瓦礫の様子
撮影日：平成23年3月14日
撮影者：堺市消防局

辺り一面の瓦礫の中の消防車両と
捜索活動をしている消防隊員の様子
撮影日：平成23年3月17日
撮影者：堺市消防局

岩手県大槌町

～ 支援の様子① ～

富田林市からの支援物資
撮影日：平成23年4月7日
撮影者：富田林市

岩手県大槌町

～ 支援の様子② ～

富田林市からの支援物資
撮影日：平成23年4月2日
撮影者：富田林市

富田林市からの支援物資
撮影日：平成23年4月11日
撮影者：富田林市

～ 支援の様子③ ～

本市からの職員派遣

本市消防本部は、平成23年3月11日に消防タンク車（1隊4人）・救急車（1隊3人）が、大阪府部隊として出動し、13日から大槌町（岩手県）で活動。また、13日に本市消防本部の7人が、柏羽藤消防本部、大阪狭山市、松原市と合同で第2陣（交代要員）として出発。大阪府部隊が平成23年3月18日20時に解散し、富田林市消防隊員（7人）及びタンク車、救急車が20日に帰署しました。

本市職員が平成23年3月30日から5月29日まで被災地での給水活動をおこないました。

被災者の健康相談などの派遣要請に対応し、平成23年5月2日から6日まで、岩手県山田町(宮古保健所管内)の避難所で、健康相談活動をおこなうため、保健師1人を派遣しました。
平成23年6月1日から1カ月間、被災地の保健衛生業務を支援するため、保健師1人が岩手県大槌町で勤務しました。

大阪府からの依頼により、府内の市町村による第2次派遣として、市職員2名が平成23年3月29日から4月2日まで岩手県大槌町で災害支援活動をおこないました。

岩手県大槌町の依頼により、市職員1名を平成25年1月1日から3月31日、平成25年4月1日から26年3月31日、平成26年4月1日から27年3月31日の期間、大槌町役場に派遣しました。

岩手県大槌町

～ 復興の様子① ～

大槌町市街地被災状況
（城山公園から）
撮影日：平成23年3月30日
撮影者：富田林市消防本部

大槌町市街地被災状況
（城山公園から）
撮影日：令和4年9月21日
撮影者：大槌町

～ 復興の様子② ～

大槌町　蓬莱島
（ひょっこりひょうたん島）
撮影日：平成25年6月14日
撮影者：大槌町

震災を忘れないための木碑
（石碑などにせず取替を継続する）
撮影日：平成27年2月25日
撮影者：大槌町

岩手県大槌町

～ 復興の様子③ ～

吉里吉里祭り
（吉里吉里虎舞を奉納する様子）
撮影日：平成23 年8月17日
撮影者：吉里吉里天照御祖神社

大槌まつり
撮影日：平成26年9月20日
撮影者：大槌町

岩手県大槌町

～ 復興の様子④ ～

大槌町文化交流施設「おしゃっち」
平成30年3月　竣工

源水町営住宅
平成25年12月　竣工

岩手県大槌町

～ 復興の様子⑤ ～

御社地町営住宅
平成30年1月　竣工

大ヶ口1丁目町営住宅
平成25年9月　竣工

岩手県大槌町

～ 復興の様子⑥ ～

大ヶ口2丁目町営住宅
平成26年9月　竣工

末広町町営住宅
平成28年3月　竣工

～ 復興の様子⑦ ～

寺野・臼澤第1町営住宅
平成27年9月　竣工

県道大槌小鎚線
平成28年7月　開通

～ 復興の様子⑧ ～

源水大橋
平成28年3月　開通

新大槌トンネル
平成30年5月　貫通

岩手県大槌町

～ 復興の様子⑨ ～

大槌学園
平成28年9月　竣工

赤浜分館・避難ホール
令和2年1月　竣工

岩手県大槌町

～ 復興の様子⑩ ～

サッカー場
令和3年3月　竣工

野球場
令和3年3月　竣工

～大槌町との連携協定～

令和2年11月29日「富田林市・大槌町の連携協力に関する基本協定」を締結しました。

岩手県大槌町と富田林市が、互いの地域発展及び住民福祉の向上を図るため、
幅広い分野で連携協力を行っています。（令和2年11月29日オンラインにて締結）

～大槌町との連携協定～

　協定締結後、初めての連携事業として、「子どもプログラム～つなごう未来に～富田林市と大槌町の絆」を開催しました。
　プログラムでは、大槌町へ「復興応援メッセージ」を届けるメッセンジャーとして派遣し、現地での交流・学習などを予定していた市内小学生を代表した4名の児童から、「大槌町への復興に向けた応援メッセージ」の朗読や、富田林少年少女合唱団の合唱が披露されました。

～「奇跡の復興米」の取り組み①～

平成23年10月、大槌町の菊池妙さんが、津波により流され瓦礫（がれき）となった自宅の玄関先から、3株の稲穂を見つけたのがきっかけとなり、塩害を乗り越え育った「奇跡の復興米」を翌年から栽培に取り組まれました。

～「奇跡の復興米」の取り組み②～

JA大阪南・JA大阪南青壮年部・富田林市・喜翔会などの関係者で結成している、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米栽培委員会」で、平成26年に喜志地区の水田3アールから栽培が始まり、今年で10年目を迎え56.0アール栽培しています。

「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」という思いのもと復興米の栽培に取り組んでいます。

～「奇跡の復興米」の取り組み③～

令和4年11月には、3年ぶりに開催されました農業祭・防災フェアに、平野町長がお越しいただき、「奇跡の復興米」を育て届け続けて来たことに対し、「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会に感謝状を贈呈いただきました。

～「奇跡の復興米」の取り組み④～

●4団体による学校教育田栽培を実施
（喜志小学校・東条小学校・河南さくら小学校・喜志地区団体
［こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」・喜志っ子クラブ］）

●バケツ稲栽培の実施
市内小学校16校の5年生(835名)

●学校内教育田栽培の実施
市内小学校の学校内にミニ水田を設置して栽培
（高辺台小学校・寺池台小学校・富田林小学校・新堂小学校）

～「奇跡の復興米」の取り組み⑤～

●収穫されたお米は･･･
岩手県大槌町（学校給食センター）へ里帰り進呈
市内各小学校へ進呈

●稲わらは･･･
天王寺動物園へ飼育用として進呈

復興米の稲わらに座るチンパンジー

～「奇跡の復興米」の取り組み⑥～

●田植え・稲刈りの様子

震災の記憶や教訓を決して忘れることなく、

防災意識を持ち続けるとともに、

災害への備えを再確認しましょう。